



南葵音楽文庫ミニレクチャー

1695年11月21日 イギリスは泣いた…

J.ブロウ《H.パーセルの死に寄せるオード》南葵音楽文庫貴重資料 N-6/12

佐々木 勉

2018年7月28日

和歌山県立図書館南葵音楽文庫閲覧室

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500
<https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/nanki/>



ジョン・ブロウ(1649~1708年)
ロバート・ホワイト作, 版画, 1700年頃
©National Portrait Gallery, London

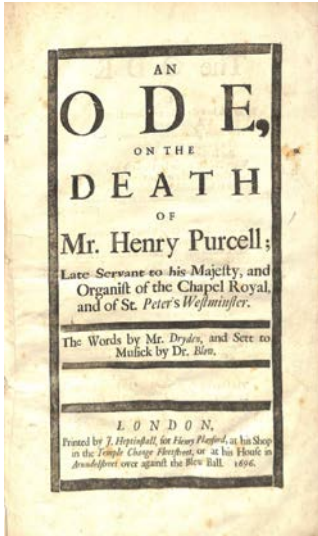


ヘンリー・パーセル(1659~95年)
ロバート・ホワイト作, 版画, 1683年
Orpheus Britannicus, 1698年 N-3/15

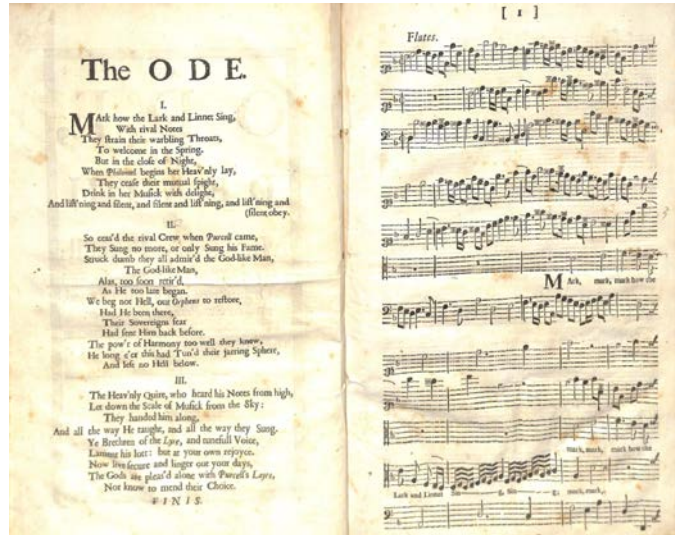
ジョン・ブロウとヘンリー・パーセル

- 1649年 ジョン・ブロウ、ノッチングガムの北東ニューアークに生まれる(2月23日受洗)。おそらく同地、マグヌス歌唱学校で最初の音楽教育を受ける。
- 1659年ヘンリー・パーセル、ロンドンのウエストミンスターに生まれ、後に王室礼拝堂少年聖歌隊員となる。
- 1660年 王政復古に際し、王室礼拝堂の少年聖歌隊員となる(聖歌隊長ヘンリー・クック)。
- 1664年 作品が初めて出版される。同僚のペラム・ハンフリーらと共に「クラブ・アンセム」と呼ばれるアンセムを合作する。同年末、変声期を迎える。
- 1668年 12月、ウエストミンスター・アビイのオルガン奏者に就任。
- 1669年 1月、国王チャールズ2世にヴァージナル奏者として仕える。
- 1673年パーセル、変声期を迎える。宮廷の楽器管理者助手となる(無給)。
- 1674年 3月16日、王室礼拝堂のジェントルマンとなる。ハンフリー死去。
7月23日、ハンフリーに代わって王室礼拝堂少年聖歌隊の指揮者に就任、終生その任に当たり、その間ヘンリー・パーセルらを指導。ウエストミンスター・アビイに「著名なパーセル氏の師」という記録。宮廷作曲家に就任。
- 1674~78年パーセル、ウエストミンスター・アビイのオルガンの調律を担当。
- 1676年 宮廷礼拝堂のオルガン奏者に就任。
- 1677年 12月10日、音楽博士号を受ける。パーセル、マシュー・ロックの後任として宮廷作曲家に就任。
- 1679年 9月、パーセルにウエストミンスター・アビイのオルガン奏者を譲る。
- 1682年パーセル、宮廷礼拝堂のオルガン奏者に就任、同僚となる。
- 1687年 9月、セント・ポール大聖堂の少年聖歌隊指揮者に就任。
- 1695年 宮廷調律師、ウエストミンスター・アビイのオルガン奏者に就任。11月21日パーセル死去。
- 1700年 王室礼拝堂の作曲家に就任。
- 1703年 セント・ポール大聖堂の少年聖歌隊指揮者を退任。
- 1708年 10月1日、ロンドン、ウエストミンスターで死去。

ジョン・ブロウ《ヘンリー・パーセルの死に寄せるオード》南葵N-6/12



タイトルページ



ジョン・ドライデン (1631~1700年) による《オード》と楽譜の冒頭

An Ode on the Death of Mr. Henry Purcell
I.

Mark how the lark and linnet sing ;
With rival notes
They strain their warbling throats,
To welcome in the spring.
But in the close of night,
When Philomel begins her heav'nly lay,
They cease their mutual spite,
Drink in her music with delight,
And, list'ning and silent, silent
And list'ning, list'ning and silent obey.

II.

So ceas'd the rival crew when Purcell came;
They sung no more, or only sung his fame.
Struck dumb,
they all admir'd the matchless man.
Alas! too soon retired, as he too late began.
We beg not Hell our Orpheus to restore ;
Had he been there,
Their sovereigns' fear had sent him back before.
The pow'r of harmony too well they knew :
He long e'er this had tun'd their jarring sphere,
And left no Hell below.

III.

The heav'nly choir, who heard his notes from high,
Let down the scale of music from the sky.
They handed him along,
And all the way he taught,
and all the way they sung.
Ye brethren of the lyre and tuneful voice,
Lament his lot, but at your own rejoice.
Now live secure, and linger out your days,
The gods are pleas'd alone with Purcell's lays,
Nor know to mend their choice.

ヘンリー・パーセル氏の死に寄せる頌歌

ヒバリとムネアカヒワの歌うのを聴け。
対抗者の調べに合わせ、
彼らは、精一杯さえずりの喉を張り上げる、
春の訪れを歓迎して。
だが、夜の帳の中、
ナイチンゲールが天上のさえずりを始める時、
彼らは互いに競い合うのを止め、
嬉しそうに彼女の歌に聴き入る。
静かに、静かに、聴け、
聴け、聴け、静かに。

だがこの争いも、パーセルが現れ、終わりとなった。
彼らはもはや歌わず、彼の名声を讃えるだけ。
口をつぐむのか、
彼らは比類なき者をただただ称賛する。
ああ、終わるのは早すぎる、始めたのは遅すぎる。
地獄に向かって我がオルフェウスを返せなどとは言わない。
彼がもしそこにいるのなら、
支配者たちは恐れてとうに彼を返したはずだ。
彼らはハーモニーの力を知っていた。
彼は彼らの耳障りな天空を調律してしまった、
だから地獄など、もはやない。

天国の合唱団も高みからその歌を聴き、
天空から音階を引き下ろす。
彼らは彼を手伝い、
彼はたえず教え、
彼らはたえず歌い続ける。
豎琴と美しい調べよ、
彼の運命を嘆け、ただし喜びの中で。
今や安息に生きよ、もはや長居は無用。
神々はパーセルの歌に喜びのみ、
彼らの選択を覆すことなど思いつかない。